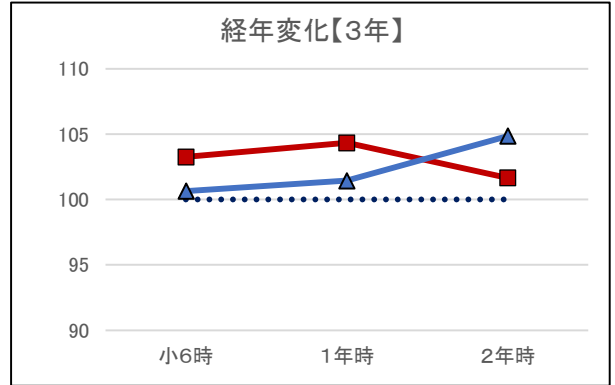
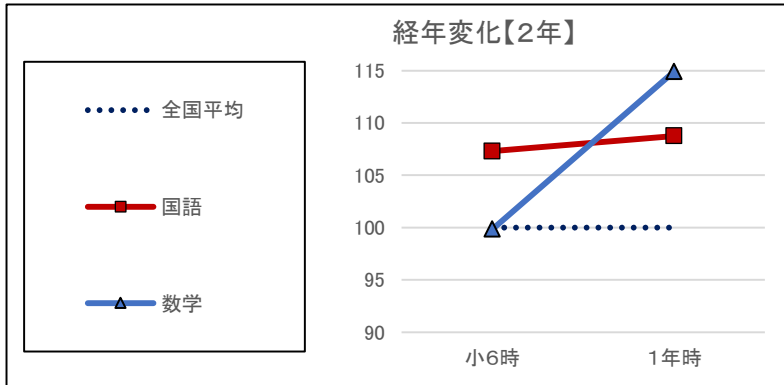


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

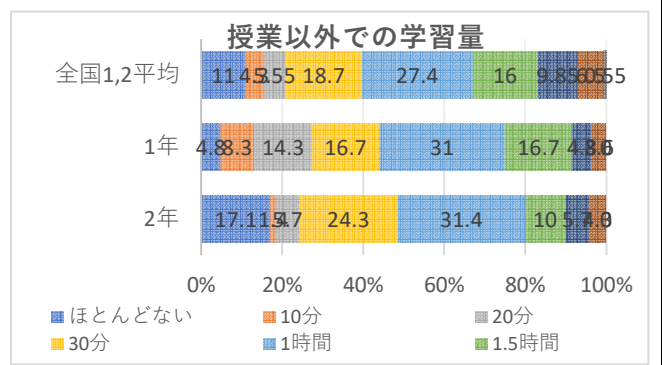
① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

○国語、数学ともに平均で見ると、全学年が全国平均を上回り、おおむね良好な状況です。昨年の数字と比べても、全体的に上昇傾向がみられます。

▲授業以外の学習時間の項目で、1時間未満の割合を全国平均と比較すると、2年は4.5p、3年は8.9p多い状況です。また、学年が進むにつれて家庭学習量が少なくなることが読み取れます。引き続き、今年度も家庭学習の励行を学校全体で進めていきます。



II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> 全教科で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 ①思考・判断・表現を促す課題の設定 ②個人思考した結果を表現しあう時間の保障 ③「見通し」「振り返り」の位置づけ 校内研修においては、学力向上に向けた課題を共有し、授業づくりを推進する。 ICT機器の活用を図り、生徒が課題解決に向けて思考・判断・表現する場の設定を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いのできる集団(互いを認め合う人間関係があり、互いの力を出し合って高め合うことのできる集団)づくりに努める。 「釧路市授業スタンダード」を意識した学習規律の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト2週間前に朝学習期間を設定する。また、学習の計画を立て見通しを持った家庭学習強化週間を設定する。(家庭学習パワーアップ週間) 放課後学習の実施 学習後時間をおき、「忘れた内容」を意図的に課題として出し、復習の必要性を意識させる。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点

- ・【話し合い活動】読後の感想の記述や授業のまとめとなる言語活動に話すことや書くことを意識して取り組んでいく。
- ・記述の課題の正答率が低いことが近年の課題である。課題に対して自分の考えを持つこととそれを的確に表現するという活動を授業の中に位置づける。また、条件や構成を意識した書き方を指導していく。
- ・文法・語句に関する事項を徹底させる。その結果、的確な表現ができるようになることにつなげていく。
- ・授業中教師の説明をコンパクトにして、生徒がじっくり考える時間を確保できるようにする。

数学科の重点

- ・【話し合い活動】生徒が個人思考した結果を、グループや全体で表現しあい、学びを深める時間を位置づける。
- ・授業の学習過程において、「見通し」と「振り返り」を位置づける。
- ・ICT機器の活用や苦手分野のフォローアップ問題の実施により、確かな基本を身につけさせる。
- ・家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛け、家庭学習の習慣化を図る。
- ・1年：活用力を育成するための、学習課題の精選をおこなう。
- ・2年：図形分野の学習を重点単元とし、論理的に説明できる力を育成する。

社会科の重点

- ・【話し合い活動】意見の交換や共有などを行う思考的場面を位置づける。
- ・ワークやプリントを用いた重要語句の習得の徹底を行う。
- ・自ら調べ学ぶ姿勢を育成するための課題を工夫する。
- ・家庭学習や放課後学習の励行していく。

理科の重点

- ・【話し合い活動】科学的な思考力を身につける
→思考活動、話し合い活動の習慣化、実験時の思考のルーティーン
- ・科学的な思考力を身につける
→思考活動、話し合い活動の習慣化、実験時の思考のルーティーン

英語科の重点

- ・【話し合い活動】新文法を使った他者とのアクティビティをこまめに入れていく。
- ・条件作文の練習への定期的な取り組みをパフォーマンステスト等で継続的に行っていく。
(5技能を場面に応じて行う。次につながるような活動にする。)
- ・ワーク等で英文法を理解するための練習問題に取り組む時間を確保する。
- ・デジタル教科書の音声を最大限に生かしたりリスニング・音読への取り組みの徹底を図る。
- ・新聞等の簡単な英文の読み物をどんどん提供していく。

音楽科の重点

- ・【話し合い活動】音楽的諸要素をベースにした楽曲分析を、個人→グループ→一斉の流れで思考を深める。
- ・音楽表現や音楽分析に必要な不可欠である「音楽的諸要素」への理解を進め、生徒が主体的・分析的に音楽を捉えることができるような題材設定や教材曲の選定、授業の構成を考えていきたい。
- ・コロナ等の感染状況にもよるが、ぜひ歌唱分野（独唱、合唱）の充実をはかりたい。自分の全身（声）を使って音楽を表現する喜びや楽しさを存分に味わわせたい。
- ・生徒全員に対し、それぞれの学習分野や題材において基礎的な学習事項の定着を目指し、早い段階での乗り遅れがないように、必要に応じてスモールステップを用いたり学習形態を工夫するなど、効果的な指導方法を考えていきたい。
- ・「音楽が生活に潤いを与える」「音楽のある生活が学校に活気をもたらす」という音楽科の一つの理想（かなり大きく遠い理想ですが）をもち、その実現のために何が必要か、今何ができるかを今一度整理し生徒と向き合っていきたい。

体育科の重点

- ・【話し合い活動】本時の具体的な取り組み方法を明確にし、話し合いや協力してレベルアップできる学習形態・効果的な指導方法を考えていきたい。
- ・コロナの感染拡大の影響がすごく大きいと思われるが、ここ3年間で特に子ども達の体力及び基礎的・基本的技能の低下を感じる。生徒全員に対し、それぞれの学習分野（種目）において基礎的・基本的技能の定着を目指す。

美術科の重点

- ・【話し合い活動】生徒同士でアイデアを共有したりアドバイスできる場面を設定する。
- ・導入において、「やってみよう」を生む発問、流れを意識する。
- ・見通しの立てられる授業作り、準備を行う。
- ・対話を意識した活動、場面を適切に設置する。
- ・意図に応じた表現方法を創意工夫する力を高める。
⇒これまでの経験を次に生かしている意識が芽生えるよう意識する。

技術・家庭科の重点

- ・【話し合い活動】ペアでの交流、グループ同士の交流において、お互いを評価しアドバイスをしあい、改善点をまとめる活動を位置づける。
- ・導入では、生徒が「知りたい」「やってみよう」と思う発問の工夫を考える。
- ・自らの生活を振り返り、ひとり一人の学習課題を立てさせる。
- ・生徒が見通しを持てる授業づくり、準備を行う。
- ・裁縫や栽培、プログラミングでは、動画資料などを用いて、個々の進度に合わせて作業を進められるように準備する。教えられることを待つのではなく自ら学ぶことができる学習環境を整える。